

新型コロナウイルス感染症 今、わかっていること



日本救急医学会救急科専門医
日本集中治療医学会集中治療専門医
インфекションコントロールドクター (ICD)
堀 雅俊

コロナ自己検査のススメ

重症化リスクのない方や小児で、コロナウイルスの**自己検査**が推奨されています。
気になる自己検査の精度はどうなのでしょう。

米国での研究によると、

4歳から14歳の小児で
自己採取した鼻腔ぬぐい液

医療者(看護師)が採取した
鼻腔ぬぐい液

上記を検査して比較すると、結果は**約98%で一致**していました。

この結果から、**自己検査はかなり信頼**できると言えます。

今後も感染流行期には医療機関のひっ迫が懸念されます。

重症化リスクのない軽症の方は自己検査をうまく活用しましょう。

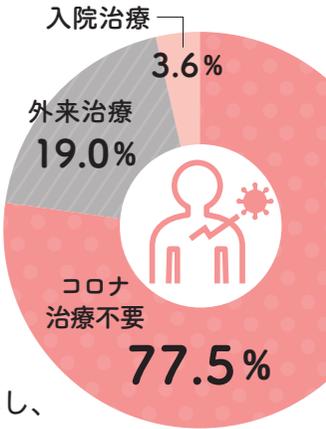
自己検査キットは で検索してください。



コロナ罹患後の後遺症

ドイツのコロナ患者を対象としたアンケート結果を示します。

患者比率は右図のとおりで軽症の患者が中心のデータですが、コロナ発症から半年～1年後の時点でも下表のような症状が残っていることがわかりました。



症状	発生率(%)
疲労感	37
集中力・記憶力の低下	31
呼吸困難、胸の痛み	30
不安、抑うつ、睡眠障害	21
頭痛、めまい	20
味覚・嗅覚の異常	24
筋肉痛、関節や四肢の痛み	17
せき、のどの痛み、声がれ	14

日本人でも同様かはわかりませんが、調査の精度も高くない恐れがありますが、それでもコロナ発症から半年以上経ってもこのような症状が残っている人がいるという事実は危機感を持つべきものだと思います。

Withコロナ時代で厳重な感染対策は緩和しつつありますが、「かかってもいいや」ではなく**コロナにかからないようにするある程度の努力は継続するべき**と考えられます。



ワクチン

ワクチンによる発症予防効果は**接種から2か月後には徐々に低下**していくことがわかってきました。重症化予防効果は比較的長く続くと考えられてきましたが、最近では**接種から8ヵ月以降には重症化予防効果も弱まってくる**ことがわかってきました。さらに、一度コロナに感染した人であっても**感染から6～9か月後にはコロナウイルスに対する免疫力が十分でなくなる**ことも示されています。残念ながら、ワクチンは当面繰り返し接種する必要がありそうです。

オミクロン対応ワクチン(2価ワクチン)には**BA.1**対応型と**BA4-5**対応型の2種類が普及しつつありますが、まだ**BA4-5**対応型は潤沢にあるというわけではありません。

BA.1対応型・**BA.4-5**対応型のいずれであっても、従来ワクチンを上回る効果が期待されています。最後の接種から期間があいて接種可能な方は、あまり先延ばしにせず**手に入る2価ワクチンを接種するのがよい**と考えられます。

※2022年11月下旬までの情報をもとに作成